



# 今日も地域で頑張っています！！

～いつも各地の大会会場で頑張って審判している方々を紹介します～

2018年2月25日(日)東葛大会

～野田市総合公園陸上競技場、天然芝～



千葉県内では様々な大会が開催されていますが、そこで日頃から活躍している審判の方々にスポットを当てて取材しました。今回は野田市サッカー協会審判委員会の皆さまを中心にインタビューをしました。

- ①:氏名(敬称略) ②:審判歴 ③:審判になったきっかけは?  
④:審判活動で印象に残っていること ⑤:これだから審判は辞められない審判の魅力とは?



対馬氏

- ①:対馬 匠(つしま たくみ)  
②:約5年  
③:子供がサッカークラブに入団した事で、コーチになったのがきっかけです  
④:特にどの試合と言うのはないですが、レフェリングを褒められた時は、嬉しかったですね(笑)  
⑤:真剣勝負の一番近いところで関わるところです



実方氏

- ①:実方 洋一(じつかた よういち)  
②:24年  
③:社会人チームに所属していた頃、帯同審判が必要になり取得しました。長男がサッカーを始めてからは、何のためらいもなくチームの帯同審判としての活動に繋がっていきました  
④:4種1人制審判でのことですが、試合中の判定に少し不満があったような選手たちが、試合後挨拶に来てくれたことです(試合後のグリーンカードの効果かもしれません)  
⑤:常にどんな試合でも全力で取組んでいます。その試合を振返れば、次への課題が見つかる(見つかってしまう?)こと。課題の克服に向けてチャレンジの連続ですね



前田氏

- ①:前田 浩一(まえだ こういち)  
②:約6年  
③:地域のクラブチームで保護者コーチになり、審判の勉強を始めたのがきっかけです  
④:クラブチームの夏合宿に帯同した際、空と山に囲まれたグラウンドで笛を吹いたのがとても気持ち良かったことが印象に残っています  
⑤:いろいろな試合がありますが、どれひとつとして同じものではなく、試合を通じてプレイヤーから刺激をもらい、自分自身成長できること。なんとと言っても、試合開始と試合終了の笛は吹いていて気持ち良いです！



## 当日参加の野田市のみなさま

後列左から

- ・小西 俊一氏 ・佐藤 智成氏 ・土屋 哲氏
- ・対馬 匠氏 ・野口 章弘氏

前列左から

- ・山崎 久氏 ・実方 洋一氏 ・高須賀 清司委員長
- ・荒巻 賢一氏



土屋氏

- ①:土屋 哲也(つちや てつや)
- ②:13年
- ③:子供がサッカーを初めて、チームの監督にすすめられて資格を取りました
- ④:割り当てを頂くようになったばかりのころ、上級審判員の方々が凄かったことです
- ⑤:試合が終わった瞬間が好きでそれが魅力です、その後、反省したりしているので、短い時間ですが



小西氏

- ①:小西 俊一(こにし しゅんいち)
- ②:約23年(審判資格は一度失効経験あり)
- ③:先輩に誘われ子供がクラブチームに入り、自分もコーチとして活動するようになったのがきっかけでした
- ④:地元の市民大会(一種)のレフェリーをしたとき、ボールを追うのに必死でレフェリングに集中力をかき、選手にはブツブツ言われ、とても悔しい思いをした事がありました
- ⑤:試合後に試合を見ていた方、ベンチにいたコーチ、時には選手から「ナイスジャッジ」、「公平なレフェリングでした」と声をかけて頂いたときにはたいへん嬉しく思いますし、さらにスキルアップ目指し努力を続けようと思います



荒巻氏

- ①:荒巻 賢一(あらまき けんいち)
- ②:平成30年7月で5年になります
- ③:自分の息子が、スポーツ少年団に所属しており、何か協力できる事はないかと取得しました
- ④:息子が小学6年生の時、県リーグ戦で帯同審判をしていた時、他のチームの選手たちが自分を覚えてくれていて、挨拶してくれた時  
あと、土砂降りの中での審判、寒い時期だったので、子供達も可哀そうでした、...
- ⑤:自分は、4種を中心に活動させて頂いているので、子供たちがゴールを決めたりした時、喜んでいる姿が一番近くで見られる事と、怪我やトラブル無く、ゲームを終えられた時



- ①:山崎 久(やまざき ひさし)
- ②:約10年になります(トスコインありがとうございました！)
- ③:少年サッカーチームの父兄コーチだったので、帯同審判として活動始めたのがきっかけです  
審判資格を取得し始めはほとんど審判員として活動はしていませんでしたが、子どもが卒団してから3級を取得し県の割り当てを頂き始めました。
- ④:色々ありますが、一番は審判活動を活発に行おうと思った試合になります  
市民大会で、試合会場の誰もが大荒れになると予想される試合の主審判当を頂いた時に、なんとか何事もなく無事に試合が終わり、負けた方のチームの選手から「ありがとうございました。これからもよろしく！」って言われたことです  
あの時は本当に「審判活動って良いな！」って思いました。
- ⑤:1. 皆さんと一緒に楽しく活動できること(みなさん良い人ばかりでいつも助かっています)  
審判員だけでなくチームの監督や選手達などたくさんの知り合いが増えました！これからもよろしくお願ひ致します
2. 一生懸命に練習し試合に臨んだ選手達と一緒に素晴らしい試合ができる事です  
一つ一つの素晴らしいプレーを近くで見られたり、緊張感のある試合が終わった後、結果に対して泣いたり笑ったりしている姿に感動しています  
試合が終わってから両方の選手やチームの方たちに「ありがとうございました！」と言われると、また頑張ろうといつも思っています

①:佐藤 智成(さとう ともなり)

②:約13年

③:子供の試合の帯同で必要となった為

④:数は少ないのですが、試合終了後に選手から「ありがとうございました！」と感謝の言葉もらったことでしょうか？そのような試合では自信を持ってジャッジできたと記憶しています

⑤:3級を取得してからは、審判の難しさや奥の深さを実感しています。それ故にきついことも多いのですが、試合終了後の爽快感は何事にも代えがたいものがあります、これが審判活動の一番の魅力でしょうか  
また、活動を通じて人と知り合うことが増えました。共通の話題ができる知り合いが増えることは喜ばしいことだと思います

①:野口 章弘(のぐち あきひろ)

②:6年

③:息子の所属していたチームのお手伝いがきっかけです

④:審判資格を取得して、はじめて選手の危険なプレーに対してカードを出した時 ジャッジが本当に正しかったのか？試合後に不安で先輩方に確認したのを覚えています

⑤:ゲーム終了後、お互いの選手にお礼を言われた時はレフェリーをやっていて良かったと思います